

## 1 基本情報

議論した施策	地域資源を活かした文化芸術の振興		
実施日/班名	10月11日(日)第4班	担当部局名	スポーツ・文化観光部 文化政策課
目標	<p>県民が文化芸術に触れる機会の提供や、創造活動の充実に向けた環境づくりに取り組めます。</p> <p>オリンピック・パラリンピックに向けて、文化プログラムを県内各地で着実に展開し、培った仕組みや人材を活かして文化振興を支えるアーツカウンシルの形成につなげ、文化力の向上を図ります。</p>		

## 2 施策推進の視点・主な取り組み

### 視点1 新たな価値を生み出す

- ① 世界も視野に入れた文化芸術を創造・発信する活動の推進

### 視点2 豊かな感性を育む

- ② 県民が文化芸術に触れる機会の拡充

### 視点3 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした文化芸術創造活動の推進

- ③ オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの推進

### 視点4 これからの文化振興

- ④ 文化を支える仕組みの構築とネットワークの創出

## 3 現状・課題

### 現状・課題1

- 文化芸術は、心を豊かにし、創造性を育むなど、人が生きていく上で欠かすことのできないものです。本県には、富士山等の美しい自然景観や、伝統芸能、国内外で高い評価を得ている（公財）静岡県舞台芸術センター（SPAC）等、国内外に誇ることができる様々な文化資源があります。こうした文化資源を再認識し、又は掘り起こしを行い創造活動と結びつけることで、地域の魅力を高めるだけでなく、そこに住む住民の誇りや愛着にもつながります。こうしたことから、文化芸術の創造活動を実現するための環境を整備することは極めて重要です。
- 文化芸術の創造活動に取り組む割合は、全国、本県ともに約2割です。文化活動の裾野を広げるため、今後も、県民の創造活動を促進することが必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの文化芸術活動が停止を余儀なくされ、文化芸術活動で生計を立てている方々を直撃しています。文化芸術に携わる方々が、一日も早く活動を再開し、魅力ある文化芸術の創造に専念できるよう、支援が必要です。

#### 現状・課題 2

- 県民の78.1%がテレビやDVD等のメディアを通じ、また、63.3%がホールや劇場等で文化芸術を鑑賞しています。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの文化イベントが中止・延期を余儀なくされていますが、今後は、「新しい生活様式」を踏まえながら、様々な手段を通じて、鑑賞機会を提供していく必要があります。
- 豊かな感性や創造性を育むため、感性豊かな時期である子ども達に対し文化芸術と出会う機会の提供及びその充実を図る必要があります。

#### 現状・課題 3

- 静岡県文化プログラムは、「東京2020オリンピック・パラリンピックを文化の祭典として盛り上げること」、「2020年以降も文化芸術振興を図る環境を整えること」の2つをねらいとし、ラグビーW杯が開催された2019年度から本格的に展開しています。
- 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムの縮小・延期・中止を余儀なくされており、来年に延期して開催する東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、「新しい生活様式」に対応したプログラムに再編成して進めていく必要があります。

#### 現状・課題 4

- 東日本大震災の復興の過程においては、文化がコミュニティ再生等に大きな役割を果たすなど、近年、社会の様々な分野における文化の持つ価値の活用について、大きく注目が集まっています。文化の力を活かすためには、まちづくりや産業振興など多様な分野との連携を促進することが必要です。
- 人々が自由に文化に親しみ創作活動を行う地域、また、文化創造の主軸となるアーティスト等が安定的かつ継続的に県内で活躍する地域となるためには文化を支える仕組みが必要です。

## 4 コーディネーター取りまとめコメント（コーディネーターが議論を総括して取りまとめ）

静岡県では、『ふじのくに文化振興基本計画』において、「文化」という言葉を「衣食住をはじめとする暮らし全般」と広範囲に捉えていることや、世界水準の舞台演劇組織SPACなど、大きな特徴が多々ある一方で、その特徴が県民に伝わっていなかったり、県として目指している地域資源を活かした文化芸術の振興に、必ずしも結びついていない事などの課題がある。これらを解決するに当たって、以下の方策が考えられる。

○富士山など地域に根ざした文化資源と文化芸術の結び付けや市町のサポートなど、地域に根差した文化活動を更に広める。

○SPACが実施する中高生鑑賞事業を通じた子供へのアプローチなど、県が様々な事業を実施していることが知られていないので、県の活動が伝わるために工夫をしていく。

○地域間格差を無くすための工夫（オンライン公演など、全ての県民が文化芸術に触れやすい環境を整備）。

これら3つのことを通して、静岡県と言えば文化芸術に溢れる県だということを県民皆が思えるようになるといいのではないかと。

## 5 施策の改善提案とその反映状況

- 県の活動（施策）が「伝わる」ための工夫として、SNSや新聞、掲示版等のあらゆる手段を活用して、伝えたい世代に合わせた広報を実施していくことが必要である。

施策対象の世代ごとにプッシュ型広報など工夫した情報提供を行うとともに、出演者や参加者によるSNS等での口コミなど、様々な主体による情報発信を進めていく。各市町、文化施設及び教育委員会（学校）等へも広報の協力を求め、事業に応じてターゲットとなる世代に向けて情報を配信するように創意工夫していく。

また、記者提供など、メディアへの積極的なアピールを進めていく。

- 静岡の地域資源を活かした文化活動の取組が十分とはいえない。例えば、富士山と文化芸術を結び付けたり、地域の祭など地域に密着した文化活動をさらに広めることが必要である。

文化プログラムの実施により創出された各地の特色ある活動の継続支援や、世界遺産や指定文化財の文化・観光への活用、地域の祭りや芸能に関する情報発信を進めていく。

また、文化プログラムの実績を発展継承して2021年1月に開設した「アーツカウンシルしずおか」においては、地域資源の掘り起こしや地域資源を活用した住民主体の多彩な文化活動を支援することで、地域社会と文化芸術をつなぎ、日常的に文化芸術に親しむ人、支える人の裾野の拡大を図っていく。

<2021年度新規取組>

- ・アーツカウンシル運営事業費助成（新規）
- ・地域ぐるみの文化財保存・活用推進事業費（拡充）

- 県民が文化芸術に興味を持つために、子どもへのアプローチを一層強化することが必要である。静岡県舞台芸術センター（SPAC）の中高校生鑑賞事業を拡大するなど、子どもや若者が文化芸術活動に触れる場面を創出すべきである。

SPACの中高校生鑑賞事業をはじめ、第一線で活躍するアーティスト等が講師のふじのくに子ども芸術大学、県内プロオーケストラによる学校等訪問事業等、引き続き教育委員会と連携して子どもが文化芸術に触れる機会の提供に努めていく。

また、2021年度からは、意欲ある高校生を対象に、SPACの俳優や施設等を活用した演劇アカデミーを開設し、将来の演劇に携わる人材の育成を進めていく。

<2021年度新規取組>

- ・「演劇の都」推進事業費（拡充）

- 文化芸術の享受に対する地域間格差をなくすため、オンラインの活用等、複数の手段を設けるなどの工夫をし、県民が文化芸術に触れやすくしていくことが必要である。

県内各地での文化芸術鑑賞の機会を促進するために、県内プロオーケストラ及びSPACが実施している学校等訪問プログラムについては、過疎地域を優先し、各市町の類似事業の実施状況を踏まえ、引き続き実施する。さらに、オーケストラについては、公演に出掛けにくい高齢者、障害者等へのアウトリーチによる鑑賞機会提供の充実を図っていく。

また、県立美術館の収蔵品のデジタル化や、ふじのくに地球環境史ミュージアムにおけるデジタルコンテンツの制作、配信を進め、自宅等からの文化芸術に触れる機会の拡大をきっかけに、本物を直接見る来館鑑賞を促していく。

<2020年度新規取組>

- ・文化施設等のデジタル化・安全安心対策事業費（新規・12月補正）

<2021年度新規取組>

- ・文化芸術における静岡ブランド創造・発信事業費（新規）